

MYOPIA CORRECTION SURGERY



Egen

EGEN VISION CLINIC

エゲン ビジョンクリニック



見えるを、超える。

近視矯正手術を
受けられる皆様へ

SMILE Pro ・ Contoura ・ WaveLight Plus ・ ICL

近視矯正・白内障手術 専門クリニック
大阪市北区曽根崎新地（西梅田・北新地）

■ 目次

ご挨拶	01
執刀医のご紹介	02
近視矯正手術という選択／なぜ「術式選び」が重要なのか	03
4つの術式のご案内（SMILE Pro・Contoura・WaveLight Plus・ICL）	04
角膜の手術と眼の中の手術（ICL）はどう違うのか	06
適応を守ることの大切さ／術式の目安	07
費用について／予約変更・キャンセル	08
適応検査から手術までの流れ①（適応検査・精密検査）	09
適応検査から手術までの流れ②（手術当日・検診・コンタクト中止）	10
手術当日・術後の注意点	11
術後の見え方について／狙いどおりの度数からのずれ	12
点眼の使い方／術後の点眼について	13
よくあるご質問	14

MESSAGE

■ ご挨拶

近視矯正手術は、メガネやコンタクトレンズから解放され、毎日の見え方を大きく変える手術です。その目的は、視力の数字を上げることそのものではなく、手術後の生活をより快適に、より自由にすることにあります。

近年、この手術は精度・安全性の両面で大きく進化しました。一方で情報があふれ、「何が正しく、何が本当に自分に合っているのか」を見極めることは、かつてないほど難しくなっています。日本では近視矯正手術の約7割をICLが占め、世界的に見ても独特な状況が続いてきました。SMILE Proという、より低侵襲で広い適応をもつ角膜手術が、長く選択肢に入らなかったことがその一因です。

私たちが大切にしているのは、手術の上手さを「何分で終わるか」「年間何件か」で語ることではありません。**一人ひとりの眼の状態と生活を丁寧に理解し、4つの術式の中から、純粋に医学的根拠から最適な方法をお選びすること**——それこそが、近視矯正手術に残された最大のテーマだと考えています。

適応を守った手術は、安全な手術です。逆に、適応の判断を誤ることは、手術そのものの失敗につながります。当院はそのことを何よりも重く受け止め、精密な検査と誠実なカウンセリングを実践してまいります。

EGEN VISION CLINIC 院長／近視矯正手術 主任執刀医

梅本 弓夏

■ 執刀医のご紹介

近視矯正手術から白内障手術、他院で手術を受けられた眼のタッチアップ（追加矯正）まで、それぞれの専門領域を生かし、責任をもって対応いたします。



梅本 弓夏 Yuka Umemoto

EGEN VISION CLINIC 院長 / 近視矯正手術 主任執刀医

ICL・SMILE Pro・白内障手術 担当

2014年香川大学医学部卒業。市立西宮中央病院、大阪大学附属病院を経て、2016年大阪大学眼科学教室に入局。その後、関西労災病院、JCHO大阪病院（旧大阪厚生年金病院）に勤務し、白内障・緑内障など幅広い疾患に携わる。2024年より南大阪アイクリニックをはじめ、眼科クリニック・総合病院にて診療に従事。眼に最適な近視矯正手術を選択することの大切さを、多くの方に知っていただく取り組みを行っている。



渡邊 敬三 Keizo Watanabe

医療法人翔洋会 統括責任者 / 南大阪アイクリニック 院長

SMILE Pro・白内障手術・タッチアップレーシック 担当

2003年近畿大学医学部眼科学教室入局。府中病院（和泉市）勤務、オーストラリア留学を経て、2014年より近畿大学医学部講師として白内障・角膜外来を担当。2016年より南大阪アイクリニック院長。2025年より眼科専門誌 Clinical Ophthalmology 査読委員。『白内障ラボチャンネル』を通じて、日本の白内障手術の改革に取り組んでいる。

同じチームが、初診から手術・アフターケアまで

当院では、初診から手術、その後の経過観察まで、一貫して同じチームが担当します。検査・カウンセリング・手術・術後フォローを通して、あなたの眼の「過去・現在・未来」に寄り添います。

■ 近視矯正手術という選択 ／ なぜ「術式選び」が重要なのか

近視矯正手術に「これさえ選べば正解」という万能の術式は、存在しません。

角膜の厚さ・形・近視や乱視の強さ・前房（眼の中の空間）の深さ・生活スタイル。これらは人によってまったく異なります。だからこそ、最適な術式も一人ひとり違います。本来、術式は次の順番で決まるべきものです。

- ◆ 精密検査で、角膜の形・厚み・度数・乱視・前房深度・眼軸長などを正確に測る
- ◆ 仕事・スポーツ・将来の見え方など、生活と希望を丁寧にうかがう
- ◆ 医学的に最適な術式を選び、十分な説明のうえで一緒に決める

「提供できる術式の幅」が、そのまま「あなたの選択肢の幅」になる

ところが、ひとつの術式しか扱っていない施設では、選択は「それを受けるか、受けないか」の二択になってしまいます。提供できる術式の範囲が、そのまま患者さまの選択肢の範囲を決めてしまうのです。

日本が「ICL約7割」という独特な市場になった背景

SMILE Proを行うには専用のフェムトセカンドレーザー（VISUMAX 800）が必要で、その薬事承認が日本で下りたのは2024年7月でした。一方ICLは大きな設備投資なく始められます。この設備投資の差が、本来は低侵襲な角膜手術が合う中等度近視の方にも、ICLが選ばれやすい構造を生んできました。これは個々の医師の問題ではなく、市場の構造の問題です。

EGENが4つの術式すべてを揃える理由

当院がSMILE Pro・Contoura LASIK・WaveLight Plus LASIK・ICLのすべてを提供するのは、メニューを増やすためではありません。**術式に左右されず、純粋に医学的根拠だけから最適な提案ができる環境をつくるため**です。ICLをご希望で来院された方でも、検査の結果SMILE Proの方が適していれば、その理由を丁寧に伝えします。

■ 4つの術式のご案内 — 角膜のレーザー手術

角膜（眼の表面の透明な膜）の形をレーザーで整え、ピントを合わせる手術です。眼の中には触れません。角膜の形や眼全体のバランスから最適な選択を可能とするため、当院では3種類の異なるレーザー手術をご用意しています。

1

SMILE Pro スマイル プロ

VISUMAX 800

角膜のフタ（フラップ）を作らない、最も新しい世代の角膜レーザー手術です。角膜の内部でレーザーが薄いレンズ状の組織（レンチクル）を作り、それを約2mmの小さな切り口からそと取り出します。表面をほとんど傷つけないため、眼への負担が小さいのが特長です。

向いている方

軽度～中等度の近視（おおむね -2D～-8D／角膜に厚みの余裕がある方）

主なメリット

フラップを作らず角膜の神経を温存 → ドライアイが出にくい。衝撃に強くスポーツ向き。回復が早い

精度

中等度近視で狙いの±0.50D以内に約9割、±1.00D以内にほぼ全例と報告されています

注意点

乱視が強いとわずかに低矯正に振れやすい。視力の安定まで数週間かかることがある

2

Contoura LASIK トポガイド レーシック

FS200 + EX500

角膜の表面にフラップを作り、その下にエキシマレーザーを照射して角膜のカーブを整える最新世代のレーシックです。角膜の細かい凹凸（トポグラフィ）を測定し、その形状に合わせて照射するため、**角膜の形が少し不規則な方や、角膜由来の乱視・高次収差がある方**への対応力に優れます。

向いている方

角膜の形が不規則、斜め方向の乱視や高次収差が気になる方

特長

topolyzer VARIOで角膜形状を解析し、一人ひとりの角膜に合わせて照射

精度

狙いの±0.50D以内に9割超と報告されています

3

WaveLight Plus LASIK レイトレーシング レーシック

眼球全収差補正

角膜だけでなく、**眼全体の光の通り道をシミュレーション（レイトレーシング）**して照射する、屈折精度を追求したレーシックです。**topolyzer VARIO と Sightmap**で見え方のバランスを最適化し、眼球全体の収差を補正することで、コントラストの良い質の高い視界が得られます。

向いている方

レーザー手術が適応で、屈折精度・見え方の質（コントラスト）を重視したい方

精度

狙いの±0.50D以内に約97%という、世界中の研究でも確かな実績が確認されています

■ 4つの術式のご案内 — 眼の中に入れる手術

4

ICL 有水晶体眼内レンズ・EVO

眼内手術

角膜の形を一切変えずに、眼の中（虹彩＝茶目の裏側）に、薄く柔らかいレンズを入れる手術です。コンタクトレンズを眼の「外」ではなく「中」に入れるイメージです。現在のEVO世代はレンズ中央に小さな穴があり、眼の中の水（房水）の流れを保つ工夫がされています。角膜の端を3mm前後切開して挿入します。

向いている方	強度近視（おおむね-6Dを大きく超える方）、角膜が薄くレーザー手術が受けられない方
主なメリット	角膜の形を変えないため、角膜の厚みによる適応の制限を受けにくく、強度近視に対応。レンズを取り出せる可逆性がある
精度	低～中等度で狙いの±0.50D以内に約9割、±1.00D以内にほぼ全例と報告されています
必須条件	前房深度（ACD）が十分にあること。当院は安全を重視し、ACD 3.2mm以上を基準としています

ICLを選ぶ前に、正直にお伝えしたいこと

ICLは適応の合った方にとって非常に優れた手術ですが、「低侵襲で万能」ではありません。挿入したレンズは、30～40年という長い年月にわたって眼の中に置き続けることになります。この時間軸で考えるべき点が、次のようにあります。①将来どこかでレンズを抜く必要が生じる可能性、②白内障が早く進む可能性、③角膜の内側の細胞（角膜内皮）が少しずつ減る可能性、④まれに眼内炎などの眼内手術固有の合併症。「元に戻せる」は、裏を返せば「いつか戻す必要がある」という意味でもあります。**レンズを抜くと矯正の効果もなくなり、近視・乱視は手術前の状態に戻ります。**

スポーツをされる方へ

ICLは眼の中でレンズがごくわずかに動く可能性があるため、格闘技やコンタクトスポーツなど激しい運動をされる方には、フラップを作らず角膜の構造を保てるSMILE Proの方が有利な場合があります。生活スタイルも術式選びの大切な材料です。

■ 角膜の手術と、眼の中の手術（ICL）はどう違うのか

術式を選ぶうえで、最も本質的な違いは「眼のどこを扱うか」です。同じ近視矯正手術でも、安全性の**種類**がまったく異なります。

	SMILE Pro	レーシック Contoura／WaveLight Plus	ICL
扱う場所	角膜（眼の表面）だけ／眼外手術		眼の中にレンズを留置／眼内手術
角膜の扱い	形を整える フラップなし・低侵襲	フラップを作り形を整える	形を変えない
可逆性	なし		あり（取り出せる）
適応近視度数	おおむね -8D前後まで		強度近視～-18D程度まで
主なリスクの性質	角膜に関するもの（ドライアイ等）		眼内手術固有（白内障・眼圧・角膜内皮への長期影響）
将来の対応	近視が戻った場合も、条件が整えば追加矯正で対応できることがある		白内障手術の際は抜く必要がある。前房が浅くなる・角膜内皮が減少した場合も抜去が必要になることがある。抜くと近視・乱視は手術前の状態に戻る
特に向く方	中等度近視まで・スポーツ・ドライアイが気になる方	角膜の凹凸が不整・全眼球収差が大きくコントラストを重視する方	強度近視・角膜が薄くレーザー不可の方

大切なのは「どちらが良いか」ではなく「あなたに何が最適か」

「ICLは元に戻せるから安心」という説明をよく耳にします。確かに可逆性はメリットですが、それは眼の中に入る手術であることの裏返しでもあります。**適応が合えば、眼内に触れないSMILE Proの方が眼への侵襲は少なくなります。**どちらが優れているという話ではなく、検査結果とライフスタイルから、あなたの眼にとって最適な一つを選ぶことが何より重要です。

■ 適応を守ることの大切さ / 術式の日安

どんなに優れた術式も、「適応を守ること」なしには安全になりません。

適応とは、その手術を安全に受けられる眼の条件のことです。角膜の厚みや形、前房の深さ、度数の範囲——これらの基準を一つでも外れたまま手術を行うと、見え方の質の低下や、長期的な合併症のリスクが高まります。**適応の判断を誤ることは、手術手技そのものの巧拙よりも、結果を大きく左右します。**

近視度数・角膜厚・前房深度の3つから見た術式の日安

あくまで目安で、最終判断は精密検査と医師の診断によります。◎ 推奨 / ○ 検討可 / △ 慎重 / × 不可（要相談）

近視度数（SE）	角膜厚	前房深度（ACD）	SMILE Pro	ICL
-2～-6D未満	十分	深い（十分）	◎ 推奨	○ 検討可
-2～-6D未満	十分	浅い	◎ 推奨	× 不可
-2～-6D未満	薄い	深い（十分）	× 不可	◎ 推奨
-6～-8D	十分	深い（十分）	△ 慎重	◎ 推奨
-6～-8D	薄い	深い（十分）	× 不可	◎ 推奨
-8D超（強度）	問わない	深い（十分）	× 不可	◎ 推奨

※ 前房深度（ACD）が当院基準（3.2mm以上）に満たない場合、ICLは選択できません。角膜の条件が合えば角膜手術を検討します。
※ -6～-8Dの角膜手術（△ 慎重）：近視が強いほど角膜の切除量が増えるため、角膜厚が十分でも慎重に適応を判断します。手術後に残す角膜の厚みが安全基準を下回る場合は不可となります。

レーシック（Contoura／WaveLight Plus）の位置づけ

上の表にはレーシックを含めていません。レーシックは角膜に十分な厚みがあることが前提ですが、**角膜表面の凹凸が不整な方や、眼球全体の収差（全眼球収差）が大きい方**には良い適応となり、コントラストの良い、質の高い見え方が得られます。SMILE Proと並ぶ、角膜手術の有力な選択肢です。

「今の見え方」だけでなく、30～40年先まで含めて考える

-6D未満でも前房が深ければ、ICLは立派な選択肢になり得ます。術式選びは度数だけでは決まりません。一方で、ICLは眼の中に異物を**30～40年という長期**にわたって留置する手術です。将来**白内障の手術を受ける際にはICLを抜く必要があり**、加齢で前房が浅くなった場合や角膜内皮細胞が減少した場合にも、抜去が必要になることがあります。レンズを抜くと矯正の効果もなくなり、**近視・乱視は手術前の状態に戻ります**（白内障が生じていれば、そのまま白内障手術へ移ります）。これに対し角膜手術（SMILE Pro／レーシック）は眼の中に異物を残さず、**将来わずかに近視が戻っても、条件が整えば追加矯正で対応できることがあります**。長期的な対応のしやすさという点では、角膜手術に利があります。「受けられるか」ではなく「数十年先まで見据えて最適か」——当院はこの視点で術式をご提案します。

■ 費用について

近視矯正手術はすべて自由診療（健康保険適用外）です。下記はいずれも**両眼・税込**の料金です。**術後6ヶ月までの定期診察代・術後のお薬を含みます**。それ以降の検診は別途となります（詳細はカウンセリングでご説明します）。

術式	扱う場所	料金（両眼・税込）
SMILE Pro 手術（VISUMAX 800）	角膜	550,000円
WaveLight Plus（レイトレーシング）LASIK 眼球全収差補正機能付き	角膜	495,000円
Contoura LASIK（FS200+EX500） 角膜収差補正機能付き	角膜	440,000円
ICL（有水晶体眼内レンズ・EVO） ノントーリック（乱視矯正なし）	眼内	550,000円
ICL（有水晶体眼内レンズ・EVO） トーリック（乱視矯正あり）	眼内	660,000円

※ ICLは乱視の有無（トーリック／ノントーリック）により費用が変わります。

■ 医療費控除について

近視矯正手術の費用は、確定申告の際に**医療費控除の対象となる場合があります**。年間の医療費が一定額を超える方は、所得税・住民税の軽減につながることがあります。当院では診療明細書兼領収書を手術当日にお渡ししますので、申告の際にご利用ください。

「安さ」だけで選ばないために

近視矯正手術は眼に対する高度な手術です。費用を比べるときは、金額そのものだけでなく、**術前検査の精密さ・術後の検診期間・再手術（追加矯正）の保証・お薬代が含まれるか**まで含めて総合的にご判断ください。当院では費用の内訳を明確にしたうえでご提案します。

■ 予約変更・キャンセルについて

当院ではお一人おひとりの検査・手術のために、あらかじめ医師・スタッフがスケジュールを調整し、さまざまな準備をしてお待ちしております。やむを得ず変更・キャンセルが必要な場合は、ほかにお待ちの患者さまのためにも、できるだけお早めにご連絡くださいますようお願いいたします。（お振込後のキャンセル規定は、p.09「適応検査から手術までの流れ」をご覧ください。）

※ 本パンフレットの料金・内容は作成時点のものです。最新の料金は受付・公式サイトでご確認ください。

■ 適応検査から手術までの流れ

初回精密検査 _____ 年 ____ 月 ____ 日

最終精密検査 _____ 年 ____ 月 ____ 日

手術日 _____ 年 ____ 月 ____ 日

どの術式が最適か、そもそも手術が受けられるかは、すべて検査で決まります。当院は**角膜が本来の形に戻った状態で精密に測る**ことを重視し、段階を踏んで判断します。各回とも所要時間に余裕をもってご来院ください。

検査代・キャンセルについて

初診の適応検査代は**5,500円（税込）**、2回の精密検査はそれぞれ**11,000円（税込）**です。**当院で手術を受けられる方は、これらの検査代を手術費用から差し引きします。**

お振込後のキャンセルは、**ICL手術**はレンズ代を差し引いた額を返金、**レーザー手術**は1週間前までは無料、前日キャンセルはキャンセル代10%を差し引いた額を返金いたします。

1

初診
約1時間半

適応検査・診察

近視矯正手術が受けられるか、適応を確認する最初の検査です。**普段コンタクトをお使いの方は、装用したままご来院いただけます**（装用下と裸眼の両方で検査するため、コンタクトケースをご持参ください）。眼底確認のため散瞳検査を行います。適応となれば、手術日・手術前検査の日程をご相談します。

主な検査：他覚的・自覚的屈折検査／眼圧／角膜形状解析／涙液検査／角膜内皮細胞検査／前眼部・眼底の三次元画像解析／細隙灯顕微鏡・精密眼底検査

2

初回精密検査
約1時間半

術式を決定する精密検査

コンタクトを所定の期間お休みいただき、**角膜が本来の形に戻った状態で精密に測定**します。調節麻痺剤を点眼して視力検査を行い、この回で最終的な術式を確定します。**アイメイク・まつ毛エクステは、初回精密検査・最終精密検査・手術当日のいずれの日も、正確なデータが得られないためお控えください（一部の検査だけでなく、3日すべてで必要です）。**

主な検査：角膜形状解析／前眼部三次元画像解析／調節麻痺下屈折検査／細隙灯顕微鏡・精密眼底検査

3

最終精密検査
約2時間

安定性を確認する検査

初回精密検査のデータと比較し、**角膜形状・屈折値が安定しているか**を確認します。測定値に差がある場合は角膜が安定していない可能性があるため、さらに期間をあけて再検査します。手術に向けた採血・血圧測定もこの回で行います。

主な検査：他覚的・自覚的屈折検査／角膜形状解析／前眼部三次元画像解析／瞳孔径測定／眼軸長測定／細隙灯顕微鏡／採血・血圧測定

※ いずれの回も散瞳・調節麻痺剤の点眼により、5～8時間ほどまぶしさ・見えにくさが続くことがあります。**お車・バイク・自転車でのご来院はお控えください。**

■ 手術当日と、その後の検診

4

手術当日
約2時間

手術

ICLの場合は散瞳剤を数回点眼し、瞳孔を広げた状態で手術を行います（散瞳のため5～8時間ほどまぶしさ・見えにくさが続くことがあります）。**レーザー手術（SMILE Pro・レーシック）では散瞳は行いません。**いずれの術式も、終了後は**保護眼鏡を装着してお帰り**いただきます。毛羽立ちやすい衣類・小物はお控えください。術後はしばらく見えにくいため、ご自身の運転でのご来院・ご帰宅はできません。

5

手術翌日

翌日検査・診察

検査と診察があります。**保護眼鏡を装着した状態でご来院**ください。

6

翌日以降

定期検診

1週間後・1ヶ月後・3ヶ月後・半年後・1年後と定期検診を行います。経過により、これ以外の受診をお願いする場合があります。

コンタクトレンズのお休み期間

角膜を本来の形に戻して正確に測るため、検査前から装用を中止していただきます。**最終精密検査が終わるまでは装用できません。**途中で再装用すると角膜の形が変わり、検査をやり直すことになります。

レンズの種類	初回精密検査まで	最終精密検査まで（合計）
1dayソフト（シリコーンハイドロゲル）	1週間 中止	合計2週間 中止
2weekソフト／1dayソフト（上記以外）	1週間 中止	合計2週間 中止
カラコン・サークルレンズ	2週間 中止	合計4週間 中止
ハードコンタクト	4週間 中止	合計6週間 中止
オルソケラトロジー	個別にご案内（数ヶ月かかる場合があります）	

※ 初回精密検査の後、ソフトはさらに1週間、ハード・カラコンはさらに2週間の中止が必要です。

※ **手術日までのコンタクトレンズ中止期間は、2回の精密検査の結果から決定します。**精密検査終了後にお伝えします。

■ 手術当日・術後の注意点

手術当日のご準備

当日の流れ（散瞳・保護眼鏡・所要時間）はp.10をご覧ください。ここでは身支度のお願いをまとめます。

- ◆ 当日は手術用の服にお着替えいただきます。前開きで脱ぎ着しやすい服装でお越しください。毛羽立ちやすい衣類・小物はお控えください。
- ◆ 術後は保護眼鏡を装用し、しばらく見えにくくなります。**ご自身の運転でのご帰宅はできません。**ご送迎やタクシーをご利用ください。

お化粧・香水は、当日は必ずお控えください

手術の安全のため、**どの術式でも、手術当日のお化粧（ファンデーション・アイメイクを含む）と香水は必ずお控えください。**わずかな化粧の粉や香りの成分も、清潔が求められる手術の妨げになります。スキンケア・ネイルも同様です。お手数をおかけしますが、皆さまに安全に手術をお受けいただくための大切なお願いですので、ご協力をお願いいたします。

※ アイメイク・まつ毛エクステは、精密検査（初回・最終）および手術当日のいずれの日もお控えください。

術後の過ごし方の目安

項目	角膜手術（SMILE Pro／レーシック）	ICL
洗顔・洗髪	医師の許可が出るまで、眼に水が入らないよう注意（首から下のシャワーは翌日以降が目安）	
眼をこする	絶対に避けてください （特に術後しばらくは厳禁）	
メイク	目元のメイクは1週間はお控えください	
運動・スポーツ	軽い運動は1週間後、激しい運動・水泳は1か月後が目安	同左（コンタクトスポーツは特に慎重に）
飲酒	術後1週間はお控えください	
見え方	術直後～数日は変動します。安定まで個人差があります	

※ 具体的な再開時期は術式と経過により異なります。医師の指示に従ってください。

よくある一時的な症状

チクチク・ゴロゴロする、涙が出る、まぶしい、光がにじむ、見えにくい——これらは術後によく起こる一時的な症状です。多くは時間とともに落ち着きます。ただし**強い痛み・急な視力低下・充血の悪化**がある場合は、我慢せず当院へご連絡ください。

■ 術後の見え方について / 狙いどおりの度数からのずれ

手術は、裸眼で1.2前後がいちばん快適に見えるよう度数を狙って行います。しかし、**レーザー照射のごくわずかな誤差**や、**ICLが眼の中で固定される位置の予測とのわずかな差**によって、狙いから少しずれることがあります。技術の進歩で精度は非常に高くなっていますが、一定数は起こり得るものとして、あらかじめご理解いただきたい点です。ずれには2つの方向があり、どちらにも良い面と注意点があります。

ずれの方向	手術後すぐの見え方	10年・20年先（老眼）
近視を治しすぎた状態 （過矯正・遠視寄り／裸眼1.5・2.0など）	遠くがくっきり見え、満足感を得やすい	老眼を早く・強く感じやすい 。手元が見えづらくなる時期が早まる傾向
近視がわずかに残った状態 （低矯正／裸眼0.8・1.0など）	「もう少し見えてほしい」と感じることもある。 遠方では 時にメガネが必要	老眼を自覚しにくい時間が長く続く 。手元が長くラクに見える

※ 裸眼0.8～1.0あれば、日常生活はメガネ・コンタクトなしで十分過ごせます。

「今くっきり」と「10年20年先の快適さ」は、時に両立しません

術後すぐの見え方を優先して遠くをくっきりさせるほど、将来の老眼は早く出やすくなります。逆に少し近視を残すと、遠方でメガネが要る場面はあっても、老眼を感じにくい年月が長くなります。**どちらが良い・悪いではなく、年齢やお仕事・暮らし方によって最適な狙いは変わります**。カウンセリングで、数十年先まで見据えた狙いを一緒に決めていきます。

誤差はゼロにはできません。だからこそカウンセリングが大切です

どれほど精度を高めても、わずかな誤差を完全になくすことはできません。そこで当院では、**万一ずれが生じたとしても、あなたにとってどちら寄りの見え方が望ましいか**を、年齢やお仕事・暮らし方から事前に一緒に考えます。「遠くをくっきり優先か」「老眼を遅らせ手元を残すか」——その狙いの方向性を、検査結果とご希望から決めていくのがカウンセリングです。

■ 点眼の使い方 ／ 術後の点眼について

術後は感染や炎症を防ぐため、お薬の点眼がとても大切です。指示された回数・期間を必ず守ってください。一般的には、**抗菌薬の目薬・炎症をおさえる目薬（ステロイドなど）・乾きを防ぐ人工涙液**を、術後しばらくの間使用します。具体的なお薬の種類・回数・期間は、術式と経過に応じて医師がご案内します。

正しい点眼の手順

1 手を洗う

石けんと流水で手をよく洗います。

2 1滴を確実に

下まぶたを軽く下にひき、1滴を確実に点眼します。容器の先がまぶた・まつ毛・眼に触れないよう注意しましょう。

3 目を閉じる

点眼後はまばたきをせず、そのまま1～5分ほどまぶたを閉じます。

4 あふれをふく

あふれた液は清潔なガーゼかティッシュで軽くふき取ります。

複数の目薬を使うとき

2種類以上の点眼薬を使う場合は、続けてささず、**5分以上あけて**点眼してください。間隔をあげないと、先にさした薬が後の薬で流れ出てしまい、効果が十分に得られません。

◆ 症状が落ち着いても、指示された期間は自己判断でやめないでください。

◆ 目薬の容器の先を清潔に保ち、他の人と共用しないでください。

■ よくあるご質問

Q. 手術は痛いですか？

点眼麻酔を使うため、手術中に強い痛みを感じることはほとんどありません。角膜レーザー手術では軽い圧迫感を感じる程度です。特にレーシックでフラップ（角膜のフタ）を作る際は強く押される感じがあり、押されている間は一時的に視野が暗くなりますが、短時間で終わります。

Q. 何歳から受けられますか？

原則18歳以上で、近視の度数が安定している方が対象です。なお40歳を超えると老視（老眼）や将来の白内障も考える必要があるため、当院ではその点も踏まえてご提案します。

Q. ICLとSMILE Pro、どちらが自分に向いているか分かりますか？

角膜の形・厚み・度数・前房深度などの精密検査の結果と、生活スタイル・ご希望から、医学的に最適な術式を医師がご提案します。「どちらが良いか」をご自身で選ぶのではなく、根拠をご説明したうえで一緒に決めていきます。

Q. 近視は戻りませんか？

いずれの術式も近視の戻り（リグレッション）は少ないとされています。ただし強い近視・若年・角膜の矯正量が多い場合などはわずかに戻ることがあり、その際は条件が整えば追加矯正を検討します。

Q. 手術後すぐに仕事へ戻れますか？

角膜レーザー手術では翌日から通常生活に戻れる方が多いですが、見え方の安定には個人差があります。医師の指示に従って段階的に再開してください。

Q. 以前レーシックを受けた眼も手術できますか？

過去の手術歴・現在の角膜の状態により異なります。タッチアップ（追加矯正）の可否も含め、検査のうえで最適な方法をご相談します。

一人の手術のために、いかに精密な検査にこだわるか。

いかに丁寧に手術を行うか。

いかに過去・現在・未来に寄り添うか。



Egen

EGEN VISION CLINIC

エゲン ビジョンクリニック

ご予約・ご相談

06-7500-0002

近視矯正・白内障手術 専門クリニック

〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地2丁目4-1 ホテルマイステイズプレミア内

Osaka Metro 四つ橋線「西梅田」駅・JR東西線「北新地」駅より徒歩約5分／JR「大阪」駅・各線「梅田」駅より徒歩約10分

本パンフレットは近視矯正手術をご検討・お受けになる皆様への一般的なご案内です。記載の適応・費用・術後経過の目安は標準的な情報であり、個々の診断・治療方針を保証するものではありません。実際の適応や術式は、必ず精密検査と医師の診察に基づいて決定します。掲載内容・料金は作成時点のものです。

見えるを、超える。